

《履修上の留意事項》面接授業と遠隔授業の併用実施

《担当者名》○山崎智弘 松尾淳司

【概 要】

感染症は古くからその存在が知られてきたものの、現代社会においても人類は未だその脅威から逃れることができていない。またSARS、トリインフルエンザ、SFTSなどの新しい感染症が発見されたこともあり、これら感染症が一旦大流行すると、パニックが発生するなど容易に社会問題となりうる。そのため、医療従事者は感染症について正しく理解し、日頃よりその対策に努めなければならない。本講義では、ヒトに感染症を引き起こす細菌、ウイルス、真菌の概要について学ぶ。また本講義は3年次前期で履修する臨床微生物学の基礎となる科目であるので、十分に理解しておくことが望まれる。

【学習目標】

- 1) 臨床検査に必要な知識と技術を習得するために、微生物学総論および感染症学について理解する。
- 2) 微生物の分類を説明できる。
- 3) 細菌の形態と代謝を説明できる。
- 4) 細菌の染色法と培養法を説明できる。
- 5) ウイルスと真菌の概要を説明できる。
- 6) 化学療法剤の種類について説明できる。
- 7) 感染症の発症とその機序について説明できる。

【学習内容】

回	テーマ	授業内容および学習課題	担当者
1	微生物学総論1	・オリエンテーション ・微生物の分類 教科書：p1-9	山崎智弘
2	微生物学総論2	・細菌の形態と構造 教科書：p10-15	山崎智弘
3	微生物学総論3	・細菌の代謝と発育 教科書：p15-22	山崎智弘
4	微生物学総論4	・細菌の染色法とその原理 教科書：p22-31	松尾淳司
5	微生物学総論5	・細菌の培養法 教科書：p31-45	山崎智弘
6	微生物学総論6	・真菌の分類と構造 教科書：p250-254	松尾淳司
7	微生物学総論7	・ウイルスの分類と構造 教科書：p282-288	山崎智弘
8	感染症学1	・滅菌と消毒 教科書：p52-59	松尾淳司
9	中間試験	・中間試験（試験及び解答・解説） 教科書：p1-45、250-254、282-288	山崎智弘
10	感染症学2	・細菌叢 ・感染症と宿主免疫、ワクチン 教科書：p71-89	山崎智弘
11	感染症学3	・バイオセーフティと感染症法 教科書：p90-105	松尾淳司
12	微生物学総論8	・遺伝と変異、遺伝子工学への応用 教科書：p46-52	山崎智弘
13	感染症学4	・化学療法1（抗菌薬の種類） 教科書：p59-67	松尾淳司
14	感染症学5	・化学療法2（薬剤耐性） 教科書：p67-71	松尾淳司

回	テーマ	授業内容および学習課題	担当者
15	微生物学	まとめ	山崎智弘

【評価方法】

中間試験 40% 定期試験 60%

【備 考】

教科書 ： 松本哲哉 編著「最新臨床検査学講座 臨床微生物学」 医歯薬出版 2017年

その他 ： クリッカーを使用した双方向型授業を行う。

【学習の準備】

教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。（40分）

講義で学習した部分について理解しておくこと。（40分）

【ディプロマポリシーとの関連性】

（DP2）臨床検査に必要な知識と技術を習得し、先進・高度化する医療に対応できる実践能力を身につけている。